

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二二二七二〇七

ただがいきびとる家族会へ

家族会『日誌』のなかから

家族会の大切さについて

七月十一日（金）、天台宿舍会が開かれ、新小岩支部書記長・清水さんの話の中で、「家族会」の決起は、世間に訴える重みと厚みがあるという話です。それは労働者自身が訴える以上に説得する力があるということです。話が終ってから皆さんで懇談したのですが、ある組合員の方が井戸端会議の延長で時々皆さんで集まり話し合いをしたい。その時の運営費として、月に百円を徴収してはと言う意見が出席者全員一致で決定しました。

赤ちゃんを抱いて参加

七月二〇日（日）、大手町農業会館九割階大ホールにおいて全国鉄労働者集会在分開されました。国鉄労働者・学生・一般市民が詰めかけ、大ホールは通路にまでぎっしりの入りで入り切れない千葉動労の組合員は受付前のロビー、裏の控室、ろう下のベンチ、さらにそこからあふれた人はろう下の床の上に靴を脱いで座っている人もでるほどでした。動労千葉家族会も参加し、中には四カ月の赤ちゃんを抱いて参加した方もありました。

全国から集まった国鉄で働く人達は、口々に分割・民営化阻止を訴え、中曽根の戦争政治に対決していく決意を改めて固めての熱弁でした。私達、家族会は最前列に並び、一語も聞きもらすまいと一生懸命でした。途中、婦民の会の方達が八月二三日・二四日に行われる集会への参加の誘いを見せて下

さいました。婦民の会は、動労千葉をとっても熱心に支援しているグループです。いつもの支援に込める意味でも二三・二四日の集会には家族会からぜひ多数参加したいものです。

家族会も体力をつけなければ

七月二十九日（火）、埼玉県浦和市民文化センターで「俺達は鉄路に生きる」の上映会が行われました。上映会は午後六時からで、次に中野委員長・被処分者・家族会が素敵な花束を頂いて上映会は終了しました。次にロビーで物品販売を手伝ったりしました。

浦和では、同じ国鉄労働者、教職員組合の方々、婦民の会の方々など多数が上映会の打ち上げ会に参加して下さりありがたいと思えました。これで早朝からオブルグに通った組合員の労もむくわれたのではないのでしょうか。今日は、仕事が終つてからまっすぐ浦和へ行き、帰宅は〇時すぎ、子供達はハンバーガーの夕食をとったようで、帰った時はもう寝入っていました。

私達は近くのラーメン屋で遅い夕食をすませ、寝たのは二時過ぎ、翌日は会社で睡魔に恐れ、体力がなければ家族会の参加もダメだなあとつくづく感じました。



1986.8.11 毎日新聞

女の気持ち

私は国鉄職員の妻

あと半年足らずで、主人と結婚して十年が過ぎようとしています。「光陰矢の如し」。三人の子育てに追われ「長いようで、やはり、この十年は短かった」というのが実感です。また「十年ひと昔」とも言いますが、十年前には想像もなかった事が、現実となっています。

主人は、余剰人員整理、分割民営化と揺れに揺れ動く国鉄の職員。そして既婚予定のローカル線、桐生一閘間の四季おりおりの絶景の中をゆっくりと走る足尾線の機関士です。つい二三年前には、考えられなかった事が今、国鉄内部で起きています。今年の秋には、来年四月の民営化に向けて人員整理も容赦なく始まります。

昨年七月、主人は民間会社へ出向し、五カ月間ラインの仕事につきました。その間、体をこわして入院したり、いろいろな事がありました。「家族のため、とにかく頑張らなければ」と、みな一生懸命なのです。国鉄職員は、人生の岐路に立っています。右か左か、この道の選択で人生も変わってきます。「辞めても地獄、残っても地獄」とは、こんな事を言つたのでしょうか。主人は迷っています。そして、悩んで「大い再就職の口があれば辞めたい」と言います。主人の肩のしかかっている重荷を、半分でも背負ってやりたい。今、国鉄職員とその家族は、どこへ向けてよいのかわからない不安と憤りを心に抱えながら、毎日を送っているのです。

群馬県桐生市
石原 恵津子 主婦・32歳

今こそ家族会の出番だ

十一月にむけての大切な時、足腰をきたえる基礎の時期である七・八月である清水さんも言っていました。組合員の方々も連日連夜、多忙を極めていると思います。また、支援カンパしてくださっている学生・一般市民・反対同盟の方々、家族会はこの方達に込める意味でも会員一人ひとりが「会」を理解し、様々な行事、集会には出席していただきたいと思えます。本当に出席するだけでも意義があると思えます。次代を担う子供達に少しでも住みよい社会をのこすのは親の役目だと思えます。皆様方の御健闘を願っています。